



妊婦健診の診療情報を新しく導入したシステムで入力する医師

二甲州・塩山市民病院

# 妊婦情報電子カルテで共有

産科分担

山梨大付と塩山市民病院

妊婦健診と出産を病院間で役割分担する「産科セミオーブンシステム」を導入している山梨大付属病院と甲州・塩山市民病院は30日、妊婦の診療情報を電子カルテ上で共有できるシステムの運用を始めた。これまでスクスなどやりとりしていたが、より安全に情報管理ができるようになり、緊急時の円滑な対応が期待されるという。

〈桑原久美子〉

産科セミオーブンシステムは、出産までの妊婦健診を通院しやすい身近な医療機関が行き、緊急時の診察や出産は体制が整った医療機関が担当する。2011年から、塩山市民病院が健診を担当し、山梨大付属病院と市立甲府病院が出産を担当するかたちで、試

験的実施してきたが、カルテはフックスでのやりとりが中心。お産が早まるなど緊急時の診療情報の引き継ぎが課題だった。

そこで山梨大付属病院は昨年度、同病院内にサーバーを置き、いずれの病院でも診療情報の入力、閲覧ができるシステムを構築。塩山市民病院で妊婦健診時に診療情報を入

出し、山梨大付属病院でも閲覧できるようにした。システム検証後、市立甲府病院にも拡大する。

県医務課によると、県内で出産を扱う病院・診療所は15カ所で、峠北、峠南、県東部にはない。県は遠方の病院で通わなければならないで妊婦の利便性を高めるため、峠北、峠南地域にセミオーブンシステムが確立すれば、「お母さんたちは安心して出産できる」と歓迎していた。

オープンシステムの順次導入を目標す。

この日、妊婦健診を受けた甲州市塩山上於曾の主婦原順子さん(34)は「長男のときは山梨大付属病院に30~40分かけて通つたが、今は3、4分で運べるので助かる。システムが確立すれば、お母さんたちは安心して出産できる」と歓迎していた。